

めざすはあったか笑顔のまちづくり

Vol.

43

2020.5月発行



あったか笑顔の まちづくり通信

新型コロナウイルスに負けないぞ！増刊号／地域の元気なサロン紹介



新型コロナに 負けないぞ！

新型コロナウイルス感染症の対策で、地域の行事やサロンが中止になり、仲間と会えず不安な気持ちや寂しい思いを抱えている方も多と思います。

今回のあったか通信では、サロンの活動紹介を掲載しています。サロンが再開し、皆さんが笑顔でまた会える日を目指して、一緒に新型コロナを乗り越えましょう！

地域まるごとサロンパーティー

地域まるごとサロンパーティーは、吉行地区社協、土与丸地区社協、助実地区社協が協働して開催される合同のサロン交流会です。高齢者サロンや子育てサロン、地域の方々が毎年約100名参加し交流を深めています。



昨年度は、土与丸地区社協が事務局となり、各地区社協がいろいろな催しを企画しました。この取組みには東西条地区住民自治協議会も支援しています。

当日のプログラムの内容は、ペットボトルで作ったけん玉ゲームや子どもたちが保護者が鬼の恰好に扮して地区社協對抗で行うデカパン競争、東西条小学校の校長先生と子どもたちが対決するじゃんけんゲーム、ビンゴゲームには、各地区社協から有給品を募って景品にしています。ビンゴゲームに使われるカードには、数字の代わりに幼児でも分かりやすいよう野菜の絵が描かれています。野菜の絵もサロンのメンバーのオリジナルです。

プログラム最後の『みんなで体操 365歩のマーチ』では、参加者全員が輪になって元気いっぱい笑顔で歌いました。サロンパーティーでは地域の方向士だけでなく、普段は違うサロンで活動

しているメンバー同士の情報交換や交流を深めることも目的としています。



一つのサロンでは難しい取組みでも、たくさんの方々が集まって合同で企画実施することで、とても良い取組みが生まれています。皆さんもサロン同士での交流を深めてみてはいかがでしょうか。

こぶし会

「こぶし会」は平成11年に設立されました。正式に設立する前から活動されており、とても長く続いているサロンです。

年間10回開催し、健康体操やお出掛けサロンの実施、1月はとんど祭りを開催しています。夏には地域の子どもたちとそうめん流しをするのが毎年の恒例です。地域の皆で和気あいあいと活動しています。



開催日は参加者に案を取って決定されています。今年度から交流会が2回増え、さらに活発に活動を進められる予定です。

「こぶし会」について長年代表をされていた今井さんに聞きました。

「こぶし会」の由来は、郷曾の地域に白い「こぶし」の花が多く咲くことからこの名前が付けました。私の家には珍しいピンクのこぶしがありますよ。

私は竹原の出身ですが、仕事の関係で東広島市へ越してきました。9年前に民生委員になった時、同時にこぶし会の代表になり、昨年まで続けてきました。初めは何もわからなかったけれど、分からないなりに頑張ってきました。

私が一番大切にしていることは、すぐ動くこと、とにかく足を運ぶことです。誰かにお願いをするならその前に自分が動いて示さないといけないと思っていますので、どんなことも後回しにせず、すぐに行動します。

行動力のある今井さんだからこそサロンのメンバーからの信頼も厚いのだと納得しました。

今年で代表のバトンを渡されましたが、今後もサロン活動を盛り上げていかれます！



大山交流サロン

平成28年に設立した「大山交流サロン」。大山サロンが開催される大山ハイツは、昭和40年代後半に分譲が進み、当時この団地に家を建てた人も70代・80代となりました。

サロンをはじめて約3年、毎週木曜日には体操、第3火曜日には食事会や茶話会を行っています。年間開催日数は驚異の60回以上！



大山交流サロンを楽しく、仲良く運営する秘訣を世話人の平野さんに聞いてみました。



平野堅三さん(昭和9年生まれ)

私は、北海道余市の生まれで仕事の関係で広島に来て、昭和40年台後半に大山ハイツに家を建てました。今は、息子家族も同じ地域に家を建てて暮らしています。

サロンのメンバーは自分が役員していた当時の自治会のメンバー達とともに、私と稲毛さん(事務・計画担当)で声を掛けました。

「大山交流サロン」の特徴は地域住民

の誰もが参加できることです。毎週お会いしているので、話が盛り上がります。また、時には女性の方達が食事を準備していただきワイワイ話しながら美味しく楽しい時間を過ごしています。

サロンの人は私も含めて県外出身者がほとんどですが、40年以上住めばココが故郷のようなものです。これからもみんなで仲良く、元気に過ごしたいものです。



内区いきいきサロン

今年の2月に志和町の福祉事業所に皆さんと志和町の内区いきいきサロンを訪問しました。

この日は、毎年サロンで恒例となっているこんにやく作りに参加させてもらいました。サロンの皆さんは『作ったり食べたり』することが大好き！ということで、平成26年からこんにやく作りを始められたそうです。地域で持ち寄った食材を使って、おしゃべりをしながら、皆さんとても楽しそうにこんにやくを作られていました。

内区いきいきサロンでは、代表者のほかに各7地区にサロンへの参加の声かけや取りまとめをもらうよう役員を置いておられます。そうすることで、多くの人にサロンを知ってもらい、参加してもらうことがねらいです。

サロンの内容は、参加者全員で考え、今回のこんにやく作りやパークゴルフ、パタンク、健康体操などみんなでいろ



いろと楽しく参加できる内容を企画しています。

今回、志和の福祉事業所の方々と参加したことも、とても良い効果があったようで「来年は、サロンで施設見学ツアーをしてみようかな」とおっしゃっていました。



ました。
代表の杉原さんは、「新型コロナウイルスの影響でサロンに参加できず、寂しい思いをされている人も多い、サロンは、地域の中で顔を合わせることもができる大切な場所」とおっしゃっていました。

『東高屋たんぽぽサロン』

平成16年に設立された「東高屋たんぽぽサロン」は、当初、「白市たんぽぽサロン」として、白市地区を対象にサロンを開催していました。白市地区もだんだんと高齢化が進み、サロン参加者の減少などの課題が挙がっていました。もともと多くの人に参加してもらいたいとの代表者の思いから、東高屋地域に対象を拡げ、平成30年から「東高屋たんぽぽサロン」と名称を変更して、白市交流館で開催しています。

内容は、手芸や七夕祭り、クリスマスプレゼント作り、食卓会など、月1回木曜日に集まり開催しています。その他、小学校行事でのボランティア活動、茶摘みの手伝い、お地藏さんの前掛けづくりなどの地域貢献活動も活発にされています。

また、生協火曜日やフジの移動スーパー「おまかせくん」(金曜日)が来る時も地域の方が顔を交わせる集いの場となっています。

一昨年、サロン訪問時に、代表者の戸野さんとの話しのなかで、「最近、白市地区に認知症

のひとり暮らしのお年寄りが増えてきよるんよ。私も、いつ認知症になるかわらんけえ心配しよるんよ。」と不安そうな声が挙がっていました。

そこで地域担当者が、「サロンの皆さんで認知症についての勉強会をしてみませんか?」と話させてもらい、市地域包括支援センター、みその寮の協力のもと、昨年2回目の「認知症についての勉強会を開催することになりました。」



戸野さんから「去年の勉強会が良かったけれど、今年は、白市地区の人だけじゃなくて、東高屋地域に住んどる人にも、参加してもらいたいけえ声掛けてみるわ。」と、サロン参加者の協力のもと、ロコモやチラシ配布、老人会等へも声を掛けて下さり、約30名の参加がありました。

また、子どもの頃から認知症の理解をしてもらいたいという東高屋地域の方や先生、専門職等の思いから、高屋東小学校で「認知症サポーター養成講座」も開催されています。

西条北地区担当
豊島 邦優



小さい頃から絵を描くことが好きで将来は『絵描き』さんになりたかったです。もともと好きだったことに加えて、小学校時代に描いた瀬野川の絵が県で表彰されたことがきっかけで、自信にもなりましたし、何よりたくさんの人から褒められたことが子どもながらにとても嬉しかったです。定年退職を迎えたら、いろいろな場所で絵を描きながらのんびり暮らしたいです。

西条南地区担当
前田 あずさ



実は前職は信用金庫の職員でした。福祉でも金融でもない道を進むのならば「農家」をしたいです。実家でお米や野菜を育てていることもあります。自分の作ったものをおいしいと言って食べてもらえることは大きな喜びになるだろうと思うからです。食べることが大好きなので自分が育てたものを食べられるのもうれしいですし、それがおいしかったらさらに幸せだなあと感じます。田舎出身なのでのどかなところで農家を試してみたいです。

八本松地区担当
岡村 智行



もう少し勉強が出来たら、中学校か高校の社会の先生になりたかったです。なぜかという、中学校の社会の先生の話がとても面白かったから。その先生は、授業中いつも10分くらい勉強に関係のない話をしてくれるんですが、その話がすごく面白い！子供のころの話、大学時代に大阪で下宿していた時の話、奥さんとの出会いなど。その先生はそういう話をする前に「余談だけど」と必ず言うんです。するとクラスみんなが「はしまった！」と目を輝かす。この先生のおかげで、社会がすごく好きになり、生徒を楽しませる先生になりたいなと思うようになっていました。

志和区担当
尾崎 妙華



今年度から、志和地域を担当させていただくことになりました。早く顔を覚えていただけるよう、あちこち回らせていただこうと思いますので、見かけたら気軽に声を掛けてください☆☆
福祉職員になっていなかったらなにかかった職業は「探検家」です。NHKのグレートジャーニーという番組を見て医師で探検家の関野吉晴さんにずっと憧れていました。なので、福祉職員になっていなかったら、看護師の資格を取り、世界中を回りながら必要な人の手助けをする、そんな探検家になっていたと思います。

高屋地区担当
山本 公に子



4歳の娘が、最近、「パフェ屋さんになりたい！」やっぱ「保育士さんになりたい！」というように将来の夢を言うようになりました。
私が子供の頃、将来なにかかった職業は、『歌手』でした。自宅カラオケセットがあり、演歌や詩吟が趣味の父親の影響もあり、いつも練習していました。

地域福祉担当者に聞いてみました！ 福祉の道にすすんでいなかったら 何になってた？



去年は、たくさんのサロンを訪問させていただきました。新型コロナウイルスが終息し、サロン活動が再開された際には、皆さんにお会いできることを楽しみにしています。
地域福祉担当者一同

この通信は皆様からの「社協会費」「赤い羽根共同募金」を財源に作成しています。